

潟を佐潟とする白鳥の数と日周行動について 1

花積三千人

286-0011 成田市玉造 5-33-1

新潟市の西のはずれ、角田山の裾に佐潟はあります。1996年3月にラムサール条約登録湿地に指定され、観察舎や駐車場が整備され、白鳥を観察する条件は随分整えられました。冬季には、多くのオオハクチョウ、コハクチョウそれにオオヒシクイが訪れ、越後平野での彼らの重要な潟の一つとなっています。佐潟では、これまで一切の給餌が行われておらず、朝餌場に飛び立った後、日中は蓮の根っこを掘り返している数羽のオオハクチョウが見られるくらいとなります。従って、昼間にここを訪れた人たちも、半ばがっかりして帰ってしまい、他の餌付けされたハクチョウの渡来地と異なり観光地化せず、白鳥と人間の着かず離れずのいい関係が保たれているのではないかと思います。

野鳥に興味を覚えた学生の頃、そんな佐潟に魅力を感じ、以降、毎冬成田からの佐潟詣でが続いています。私の実家は新潟市にあり、佐潟からは車で20分程の距離にあり、高校生の時には、点在する餌場を通る越後線を通っていました。今思えば車窓からは、田んぼで餌をついばむ白鳥達が見えていたのではないかと思います。しかし、その頃は、残念ながら白鳥には、まったく興味を持っておらず、佐潟の存在すら知りませんでした。

大学を卒業して成田に居を構えてから俄かに白鳥に引き寄せられました。いつでも見られる時には見ようとせず、佐潟からの距離が遠くなってから見たくなるというのも因果なものです。

そして、佐潟詣でを続ける内に白鳥の会を知り、多くの同好の士とも知り合いになり、30数年が経ってしまいました。佐潟詣での際、その多くの労力は写真の撮影に費やしましたが、彼らの日中行動をもっと知りたいと思い、佐潟からの飛び立ち数、餌場を廻ってのカウント、そして佐潟へ帰って来る数を数えたこともあるので、今回は観察初期のデータをまとめてみました。

1. 観察地点

1) 佐潟：三角錐型の佐潟の底辺部分にあたる観察舎周辺で潟全体を見渡せる場所で朝の飛び立ち数をカウントし、残存数が少なくなってから湖面の数をカウントして、佐潟を畔とした羽数を算出した。

観察地点付近の上空を飛んでいく個体はオオハク、コハクが識別できませんが、反対側からの飛び立ち個体は観察地点からの距離があり、数はカウント出来るがオオハク、コハクの識別が困難なので両種を合わせた数を示します。また、成幼も合わせて示します。

2) 餌場：周辺の田を車で廻りカウント

2. 観察日時および結果

1) 1996年11月10日

佐潟：6：13～7：11 3羽

餌場：7：43～10：42 味方村 782羽

2) 1996年11月11日

佐潟：6：30～6：33 21羽

餌場：7：05～10：19 味方村 359羽

3) 1996年12月16日 天候曇り

佐潟：5：40～5：59 6羽飛び立ち

6：00～6：59 8羽飛び立ち

7：00～7：59 368羽飛び立ち

8：00～8：59 308羽飛び立ち

9：05 湖面 60羽 計 750羽

9：06～9：59 12羽飛び立ち

10：00～12：59 出入りなし

13：00～13：59 4羽飛来

14：00～14：59 出入りなし

15：00～15：59 20羽飛び立ち

16：00～16：59 355飛来

17：00～17：59 62羽飛来

4) 1996年12月17日 天候曇り

佐潟：6：40～6：59 出入りなし

7：00～7：59 9羽飛び立ち

8：00～8：59 203羽飛び立ち

9：00～9：40 346羽飛び立ち、湖面 105羽 計 558羽

餌場：11：08～12：05 西川町 454羽

12：24～15：53 味方村 330羽

- 5) 1997年1月11日 天候晴れ時々雪、湖面はほぼ結氷、周辺に積雪
 佐潟：6：58～ 湖面 901羽
 7：00～12：00 出入りなし
 12：00～12：59 10羽飛び立ち
 13：00～15：59 出入りなし
 16：00～17：00 5羽飛び立ち、4羽飛来
- 6) 1997年1月14日 天候晴れ、周辺の田の雪も少なくなった
 餌場：13：10～ 西川町 1016羽
- 7) 1997年2月8日 天候晴れ、雪はない、湖面も凍結していない
 佐潟：6：30～6：59 7羽飛来
 7：00～7：59 144羽飛び立ち、5羽飛来
 8：00～8：59 570羽飛び立ち
 9：00～9：59 213羽飛び立ち
 10：00～10：59 61羽飛び立ち
 11：00～11：59 15羽飛び立ち
 12：00～13：13 湖面 39羽、出入りなし 計 1,030羽
 餌場：14：26～ 西川町 287羽
 佐潟：15：12～15：59 出入りなし
 16：00～16：59 60羽飛来、47羽飛び立ち（舟の動きあり）
 17：00～18：03 280飛来
- 8) 1997年2月9日 天候晴れ
 佐潟：6：57～6：59 出入りなし
 7：00～7：59 51羽飛び立ち
 8：00～8：59 232羽飛び立ち
 9：00～9：42 56羽飛び立ち、湖面 343羽 計 882羽
 餌場：10：04～12：44 西川町 10羽
- 9) 1997年3月8日 天候曇りのち晴れ
 佐潟：6：00～6：59 出入りなし
 7：00～7：59 350羽飛び立ち
 8：00～8：59 24羽飛び立ち
 9：00～10：11 湖面 70羽 計 444羽
- 10) 1997年4月11日 天候曇り時々雨
 佐潟：5：05～9：20 0羽

3. 考察

表に各観察日の佐潟および餌場での確認羽数を示した。

これによると、佐潟は11月から3月まで罫として利用されており、佐潟への飛来は周辺の餌場経由であることがうかがえる。その逆の経路も考えられ、餌

場が彼らの情報交換の場としても機能しているのだろうか。

日周行動については、朝、埤である佐潟を飛び立って、餌場の田んぼでほぼ終日を過ごし、夕方、と言っても日が落ちて真っ暗になってから帰ってくるのを基本としている。雪の日は総じて動きが遅くて少ない。終日潟で過ごすこともある。

餌場の探索は車で走りまわるしかなく、例年餌場とする地域はほぼ決まっているので、あたりを付けてある田を順番に探してく。しかし、3次元を活動している彼らがなぜその田に来るのか、隣の田とどこが違うのか？謎は尽きない。1月までは、佐潟より餌場の羽数がやや多いが、2月以降は餌場の数の方が少ない。この時期には、もう移動が始まっているのかも知れない。

羽数のカウントの方法については、朝はまだ寝ている個体が多く、遠くの群れの個体が重なってしまう。また起きて頭を上げると見やすくはなるが、今度は動いて数えられなくなり、餌付けされていない環境故の難しさがある。結局、飛び立つ個体を数えて、少なくなったら湖面の個体を数えるのが一番正確ではないだろうかと思う。

観察日	佐潟	餌場
1996年11月10日	3羽	782羽
1996年11月11日	21羽	359羽
1996年12月16日	750羽	—
1996年12月17日	558羽	784羽
1997年1月11日	901羽	—
1997年1月14日	—	1,016羽
1997年2月8日	1030羽	287羽
1997年2月9日	882羽	10羽
1997年3月8日	444羽	—
1997年4月11日	0羽	—

注) —は観察していない

4. 後記

本稿は昨年秋に依頼を頂き、時間を掛けてまとめるつもりでいました。しかし、失念してしまい、この数週間でバタバタと書くこととなってしまいました。結局、図も入れられず考察の議論も出来ず、薄っぺらな内容となってしまい恥ずかしい限りです。その反省をこめて表題を「1」としました。この後のデータもまとめて、佐潟の越冬羽数の動き、日周行動についてももう少し深いものがまとめられればと考えています。